

特別の教科 道徳（道徳科）

道徳科においては、生徒が話し合いや議論等を通して、考えを深めるための指導を充実することが課題です。そのため、教師の明確な意図に基づいたねらいを設定すること、授業における中心的な発問を工夫すること、1人1台端末を用いて考えの共有や話し合いの可視化を図るなどICTを効果的に活用することが大切です。

I ねらいの明確化や指導の改善につなげる評価のポイント

道徳科において、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすためには、教師が学習指導要領で示された内容項目を理解し、内容の関連性を考慮した上で、本時において適切なねらいを設定して主題を構成し、焦点を明確にして指導する必要があります。

また、教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことが大切であり、授業の評価を指導の改善につなげる過程を一層重視する必要があります。

そのため、1単位時間の指導計画の作成においては、授業の中で予想される具体的な生徒の学習状況を想定し、授業に対する評価の観点を設定しておくことが重要です。

II 指導計画の改善のポイント

生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるようにするためには、ねらい、生徒の実態、教材や学習指導過程に応じて、発問などの指導方法を工夫する必要があります。

教師による発問は、生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める重要な鍵となります。

そのため、特に授業のねらいに深く関わる中心的な発問は、生徒の思考を予想しそれに沿ったものか、考える必然性や切実感はあるか、自由な思考を促しているか、物事を多面的・多角的に考えたりするものとなっているかなどについて検討することが大切です。

III 手立ての充実のポイント

話し合いは、生徒が他者の考え方について理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりする上で重要な役割を果たしており、その効果を一層高めるためにICTを活用することが有効です。

例えば、話し合いの前にクラウド機能を用いて、他者の考えを知り、共感を表明したり質問したりする場面を設定することにより、話し合いの場で発言することに対する生徒の意欲や安心感が高まります。また、話し合いの過程をデジタルホワイトボード等で可視化することにより、生徒は、他グループの様子を参考にしながら、グループの話し合いを進めることができ、それぞれの考えをより一層深めることが可能となります。

さらに、生徒の活動の様子や成果物等に加え、授業者自らの記憶や授業中のメモ、板書の写真、録音、録画などをデータとして蓄積し、学習指導過程や指導方法等の改善に生かす資料として活用することが大切です。

【参考資料】



【道徳教育アーカイブ】
(文部科学省)



【道徳教育のページ】
(北海道教育委員会)

話し合いや議論等を通して、考えを深める指導計画の改善

【中学生第2学年】

<主題名> 「命を大切にするとはい」(D 生命の尊さ)

<教材> 国境なき医師団・貫戸朋子
(『中学2道徳 とびだそう未来へ』(教育出版))

<ねらい> 酸素ポンペを切るか切らないかについて話し合うことを通して、連続性や有限性などについて考えを深め、かけがえのない生命を尊重しようとする態度を育てる。

【I ねらいの明確化】

「生命尊重」は道徳科の内容全体に関わることを考慮し、生命の「連続性」や「有限性」などに焦点を当ててねらいを設定します。

<学習指導過程>

<p>学習過程</p>	<p>●学習活動 ○主な発問 (◎中心的な発問) ・生徒の反応</p>	<p>・指導上の留意点 ■評価</p>	<p>【Iねらいの明確化】 焦点が不明確な指導とならないよう、内容項目を踏まえ、例えば、「連続性」や「有限性」等の視点で本文の内容を整理し、生徒が自分の考えをもって、話し合いを進めやすくしている。</p>
<p>導入</p>	<p>○命を大切にすることは、どういうことだろうか。 ・人や動物に優しくすること。 ・誇り高く自分の人生を生きること。 ●範読 ○本文の内容について整理しよう。 ・状況：難民地で医療資源が乏しい。目の前の患者は助かる見込みがない。他にも患者が多数いる。 ・連続性：酸素ポンペを切ると他の患者の命が助かる。 ・有限性：酸素ポンペを切ると目の前の患者の命は助からない。</p>	<p>・「自然愛護」や「よりよく生きる喜び」など他の内容項目との関連性を踏まえながら、自由な発言を求める。 ・場面の状況を確認し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。</p>	<p>【II指導計画の改善】 中心的な発問は学習指導過程において重要な鍵となることから、例えば、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、生徒が物事を多面的・多角的に考える発問など、事前に生徒の思考を予想した上で、発問の内容や構成を検討している。</p>
<p>展開</p>	<p>○貫戸さんが自分の判断に結論を出せないのは、なぜだろう。 ・どちらの判断も正しさを証明できないから。 ・どちらの判断でも犠牲が出るから。 ◎あなたなら、どのような判断をしますか。その理由も併せて考えよう。 ●自分の考えをもつ：端末上に入力する。 (赤付箋) 酸素ポンペを切る。 ・一人でも多くの命を救うことが大切だから。 ・苦しさから助けてあげたいから。 (黄付箋) 酸素ポンペを切らない。 ・一人一人の命を最後まで大切にすべきだから。 ・もしかしたら助かるかもしれないから。 ●他者の考えを知る：端末上の考えにコメントを入力する。 ・～さんの理由に共感します。詳しく教えてください。 ・～さんの理由は考えていなかった。一緒に話し合いたい。 ●他者と話し合う：端末上の生徒の考えを基に、各グループで話し合う。 ・デジタルホワイトボード等に話し合いの様子を入力しながら進める。 ・視点を広げるために、他グループのデジタルホワイトボード等の様子を参考にしながら、グループの話し合いを進める。 ◎命を大切にすることはどういうことか、話し合いを踏まえて、あなたの判断について、もう一度、理由と併せて考えよう。 ●端末上に自分の考えを入力する。 (白付箋) 判断は変わらなかった。 (緑付箋) 判断が変わった。 ・命を大切にすることは<u>勇気がいることだ</u>。だから、私は判断を変え(ないで)、<u>酸素ポンペを切る(切らない)</u>。なぜなら、友だちの考えを聞いて、<u>どちらの判断も間違いではないことが分かったが、決断しないとどの命も尊重することができないため、自分がより納得できる方を選択しよう</u>と考えたから。</p>	<p>・登場人物の置かれた状況に共感し、自分との関わりで考えを深められるようにする。 ・判断できない生徒を想定し判断できない理由を入力するよう促す。(青付箋) ・生徒が判断する上での迷いや葛藤を大切にしながら、補助発問や問い返しを適宜行い、思考を促す。 例：貫戸さんは決断前の5秒間に何を考えていたのだろうか？ 例：看護師はどんな思いで貫戸さんを止めようとしたのだろうか？ 例：(現地の写真を提示するなどして)どの命を大切にすることが医者^のの使命だろうか？ ■他者と対話したり、協働したりしながら、生命を尊重しようとする大切さについて、多面的・多角的に考えようとしている。</p>	<p>【III ICTの活用】 「自分の考えをもつ」、「他者の考えを知る」場面において、学級全員の考えを類型化しながら共有し、参考となる考えについて質問し合うことができるようにしている。 また、話し合いの前に、共感を表明したり、質問を行ったりすることで、発言することに対する生徒の意欲や安心感を高めている。</p>
<p>終末</p>	<p>○これまでの自分の生き方やこれから目指す生き方について触れながら、学習を通して感じたことや考えたことを書こう。 ●アンケート集計アプリを活用し各自入力する。 ・話し合いを通して、命を大切にすることが<u>難しさや、命の重さについて考えることができた</u>。今後、<u>今回のような判断をする必要がない社会をつくるために、自分が<u>できることを考えていきたい</u></u>。</p>	<p>・振り返りでは、生徒の考えを尊重し、他の内容項目との関連性等を含め自由記述とする。 ・授業後、テキストマイニングアプリ等を活用し、生徒一人一人や学級全体の考えの変容について振り返りなど分析を行い次時につなげる。</p>	<p>【I評価の充実、III ICTの活用】 話し合いの様子等を蓄積し、生徒一人一人の学習状況を把握することに役立つとともに、今後の授業に対する評価の観点として活用している。</p>
			<p>【I評価の充実】 道徳教育推進教師と連携し、生徒の振り返り等のデータを蓄積することにより、今後の授業改善に役立っている。</p>